

# 子どもたちの学び合いを支え、広げる授業の実践～3年道徳～

## 1 はじめに

学級には、道徳の学習が好きと答える子どもたちがたくさんいます。理由をたずねると、「自分の意見が話せるから」や「みんなの意見が聞けるから」というものが多くありました。つまり、子どもたちは話したいし、聞きたいと思っているのです。しかし、実際の授業の場面では、いつも決まった子どもたちが話し、それ以外の子どもたちはじっと聞き手にまわっていることが少なくありません。そこで自分の考えをもっと気楽に楽しく話せるような気持ちを子どもたちに持たせたいと考え、授業の実践に取り組みました。

## 2 「自分の考えや気持ちを表現させる活動の工夫」

### (1) ネームカードの活用による自分の思いの可視化

子どもたちから出てきた言葉を板書し、共感できる気持ちにネームカードを貼り、その段階での自分の考えを決めさせて、話し合いに参加させた。可視化したことで、自分の立場を明確にした話し合いとなった。友達の話聞いて、ネームカードを動かす子どもたちが現れ、深まりのある話し合いとなった。また、子どもたちの内面の変容を把握するためにも有効であった。



< 自分ならどうするかな？ >

### (2) 役割演技を取り入れた本音の表出



本は、わたせないよ。

しかたないだろ！

約束は守ってよ！楽しみにしてたのがっかり。

資料の登場人物の気持ちに迫るために役割演技を取り入れた。役割演技を行うことで、自分の気持ちを構えずに話せる状況を作ることができた。また、友達の役割演技を見ることにより、自分も同じ状況にいるような感覚になり、感情を共有することができるようになっていった。この場面は、周りで見ている子どもたちも資料の中の学級の一員として、参加している場面である。どちらの味方をするかを決めて、一緒に演技に参加し雰囲気盛り上がった。

### (3) 話しやすくするための発表ルール工夫

挙手することに抵抗を感じる子どもたちがいることを感じたため、学級オリジナルな発表ルールを作成した。

- ① 話したい時に座席に起立して順番を待つ。
- ② ハンドサインを活用する。
- ③ 自分と同じ考えや意見が出た時には、「同じです。」と言って着座してもよい。

聞き手にまわっていた子どもたちも自分の考えが持てると、起立して自分の意思表示ができるようになってきた。また、立つことで友達の話をよく聞こうとする意識が高まり、話し手と聞き手が一体化した主体的な学びとなった。



「ぼくも同じ考えで・・・」

### 3 「比較・検討等、考える場の工夫や設定」

#### (1) グループでの話し合い活動の工夫

全体の前で話すことが苦手な子どもたちも小グループでの話し合いになら参加できるため、意見交流の場面としてグループ活動を取り入れた。グループ活動をどこに位置づけたら有効かを見極める必要があり、今回はテーマ発問後に位置づけ、ねらいとする価値を大切だと思う理由について意見の交流を行った。



#### (2) 学び合いを支える教師のつなぎの工夫

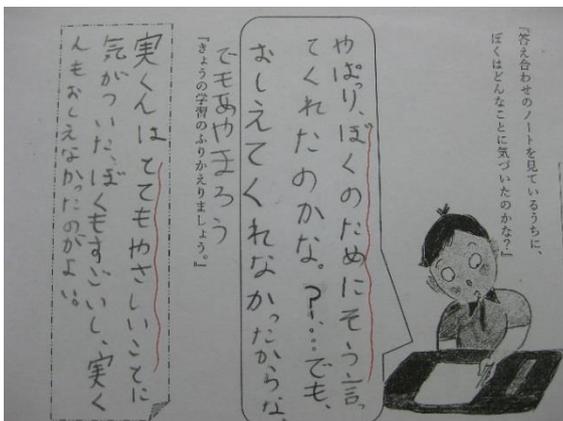
子どもたちのさまざまなつぶやきを拾い上げ、子どもたちの思考がより深まるような「つなぎ」を意識して授業実践に取り組んできた。

- ① 聞き手である子どもたちに問い返しを行い、上手な話の聞き方への意識を高める。
- ② 友達の発言を聞いた子どもたちのそれぞれの思いを拾い上げ、そのつぶやきをつなぐ。

#### (3) ワークシートや道徳ノートの活用

書く活動を通して自分の思いや考えを深めることができた。また、後で振り返って自分の気持ちの変化を感じることも有効である。さらに、子どもたちの思考を見取り評価するためにも役立った。

＜ワークシート①＞



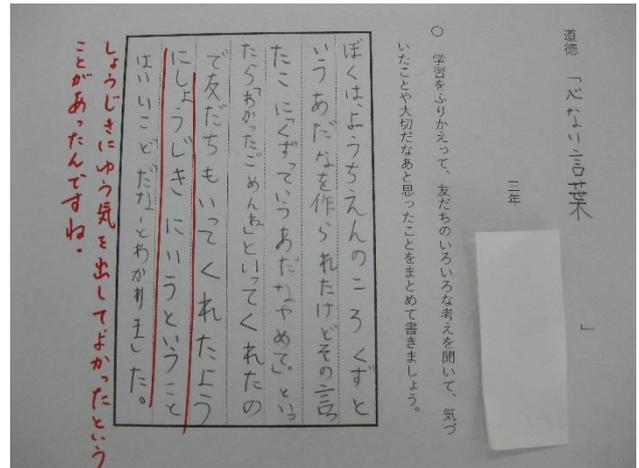
主題 「ほんとうの友達」  
 中心価値 友情、信頼  
 教材 「なかよしだから」 東書

宿題を忘れてきたことに気づいたぼくは、友達の実くんに答えを教えてほしいと言うが、実くんに「自分でやれよ。」と断られてしまい、腹を立てる。自力で解いた自分のノートを見ているぼくの心に変化が・・・。

<ワークシート②>

主題 「正しいことは勇気をもって」  
 中心価値 勇気  
 教材 「心ない言葉」 学研

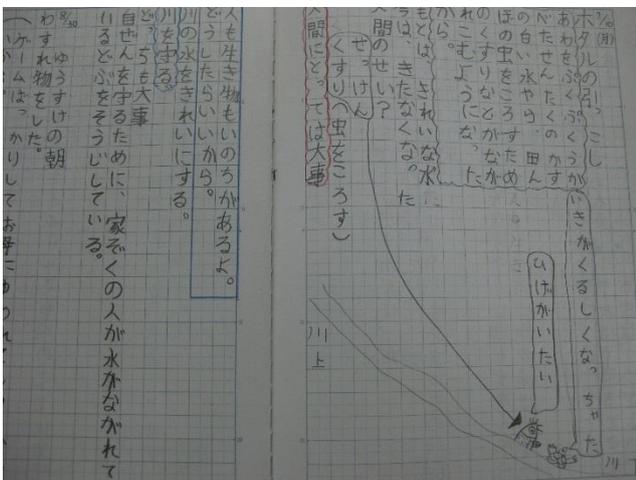
ぼくは友達からつけられたあだなが嫌で、クラスの友達に「あだなでよぶのをやめてほしい。」と言いたくてもなかなか言えなかった。ある日、お母さんに励まされ、勇気を出して・・・。



<道徳ノート>

主題 「自然の大切さ」  
 中心価値 自然愛護  
 教材 「ホタルの引っ越し」 東書

住んでいる川が住みにくくなったため、みんなで引っ越しをするという。ホタルや魚たちは、なぜ川上の方へ引っ越していったのかな・・・。



ワークシートは、吹き出しを使って登場人物になった気持ちで書けるような形式にしたり、どんな主題でも活用できるように、学習のふり返りの枠だけの形式にしたりして活用を図ってきた。道徳ノートは、板書をもとに自分の考えたことや友達の話を書きためる物として授業で活用してきた。

4 おわりに

「道徳は心の勉強」ととらえる子どもたち。道徳の時間にふれる読み物や友達の話の聞いて、自分の生活を振り返ることができるような道徳の授業をめざしています。話し手と聞き手の両方が育った授業の中に、主体的な学びは生まれます。道徳の学習を通して、学習前の自分と学習後の自分の成長を自分自身で振り返り感じ取れるような深い学びを積み重ねていきたいと努力していますが、なかなか難しいと感じています。今日も学級帰りの会では「今日のキラキラ発表」が行われ、がんばった友達やありがたい言葉を伝えたい友達を笑顔で紹介する子どもたちに思わず笑みがこぼれます。